

## 忘れえぬ言葉（２）「日系世界人 “ Japanese Cosmopolitan ”

日系世界人（Japanese Cosmopolitan）という新しい生き方

CUSA 社（サイト管理者注：キヤノン USA、以下同じ）の売上げが1億ドルを越え、北米の拠点も20ヶ所を越えるようになった頃、アメリカの友人たちから「CUSA 社は立派なアメリカの企業になったのだから、貴君もアメリカの市民権を取ったらどうか」と言われるようになった。

（中略）

自由な世界人と、自分自身がまったくその一部分になってしまっている故郷日本の日本人であることと、一体化することはできないものかと一生懸命考えたものである。さんざんない知恵をしぼって考えた結果、日系アメリカ人（Japanese American）、イタリア系アメリカ人（Italian American）とアメリカ人たちもお互いに呼んでいるのであるから、世界人たちは日系世界人（Japanese Cosmopolitan）とかイギリス系世界人とか、中国系世界人という新しい生き方があってもよいのではないかということに気がついた。（中略）

日系世界人こそ、世界合衆国の一員として世界人類の共生のために働き、そして美しい日本の歴史と文化を世界に知らしめて行く、新しい日本人の姿であると私は信じている。（中略）

世界人（日系世界人も含めて）の守るべきルール

世界合衆国がまだ実現していない現在においては、世界人が守るべき法律はない。しかしながら、私自身ほとんど世界中の人種からなる社員で構成される CUSA 社を経営した結果、世界人の守るべきいくつかのルールが見えてきたように思える。

「世界人（日系世界人も含めて）の守るべきルール」

世界人にとって世界は一つの統合市場であり、国境は県境のようなものである。

各人の祖国の歴史と文化と宗教をお互いに尊重する。

誰にでも公平（Fair）でなければならない。

「自由とは他人を害せざる限り何事もしうることをいう」というフランス革命の人権宣言を具体的に制度化する。

民主主義には皆平等な権利があると同時に、皆で決めたことは必ず守る義務がある。

世界共通語となりつつある英語の習得には難儀ではあるがそれぞれ努力する。

大和魂と日系世界人

大和魂だけでは日系世界人になれない。しかし、美しい大和魂のない日本人は初めから日系世界人になる資格がないといえるのではなかろうか。（中略）

日本人のなかには、いまだに日本人と外人という概念が残っている人がいるが、外人という人種はいない。地球上には多くの民族が住んでいるが、外人という人間は住んでいないと理解した時、日系世界人が生まれるのであろう。

日系世界人について（CGBS 代表・高橋記）

日系世界人という言葉は、キヤノン販売株式会社在职中に直接見聞した記憶はない。ただ、アップルコンピュータを筆頭に世界を代表する各社の製品とキヤノン製品とのシステム・インテグ

レーションが進展するにつれ、システム・グローバルゼーションという滝川社長（当時）の提唱する事業コンセプトが、彼の強烈な説得力を待つまでもなく、実に自然に社内に浸透していったことを思い出す。

私自身が CANONAC というキヤノン製オフィスコンピュータ（通称：オフコン）の営業マンとして、日立・日電・富士通等のメインフレームメーカーと戦っていた当時、カメラ屋あるいは複写機屋のコンピュータとの周囲の冷たい視線の中で遠慮がちに商談を進めていたものであった。そんなシーンの連続した後に、Apple に加えて IBM・HP・DEC・SUN 等の著名ブランドを販売できるチャンスができただけで実に誇らしく、意気揚々とお客さまを訪問したものである。

今顧みると、彼が日系世界人としてのギブアンドテイクを念頭に我々を指導していたからこそ、説得力があり、他面では社員全員が日本人として負けてなるものか一丸となって取り組んだ結果であったのではなからうか。

偏狭な大和魂ではなく、日本人としての誇りをもったセールスマンシップの発露を促した大きな原動力が「日系世界人」という言葉に秘められていたと思うのである。

余談であるが、アメリカ合衆国ミシガン州で学究生活を続けている私の二女の言動を垣間見ていると、彼の主張する日系世界人の守るべきルール、なかでも、 項の大切さを改めて思い出すのである。